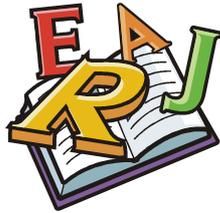


平成 23 年度

# 守谷市の学校教育



守谷市教育委員会

# 守谷市の子どもを育てる教育の実践を

教育長 後藤 光良

小学校では、本年度より学習指導要領が全面実施されました。各学校においては、2年間の移行期間の準備により、「確かな学力」を身につけ、「生きる力」をはぐくむという新学習指導要領の理念が生かされた教育活動が展開されたことと思います。今後は、改定の趣旨やポイントを十分ふまえた取組がなされたか等の検証を十分に行い、来年度の教育課程の編成にあたっていただきたいと考えています。

また、中学校は来年度から全面実施となりますので、育てたい生徒像を明確にし、全職員が一丸となった取組が展開されるようお願いいたします。

守谷市では、学校・家庭・地域が連携し、すべての子どもたちに「新しい時代をたくましく生き抜く力」の育成を図るため、「守谷市学校教育プラン」を策定してきました。具現化にあたっては、下記の5つの重点課題を設定し、各学校において地域や児童生徒の実態に応じながら創意を生かした教育実践を推進されるようお願いしてきました。

- 1 確かな学力の育成【ステップアッププラン】
- 2 豊かな心をはぐくむ教育の推進【ハートフォーヒューマンプラン】
- 3 健康と体力をはぐくむ教育の推進【ヘルス&フィジカルプラン】
- 4 新しい時代に対応した教育の推進【ニュージェネレーションプラン】
- 5 開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携【パートナーシッププラン】

「守谷市の学校教育」は、上記プランをふまえた小中連携教育・情報教育・環境教育・外国語教育（活動）等、時代の要請を受けた課題に対し、各学校が特色ある学校づくりを目指してきた実践の事例集です。

学習指導要領改定の基本的な考え方を十分理解するとともに、これまでの取組を振り返り、改善を加えながら教育活動をよりいっそう充実していくことが大切です。そのためにも、ここにまとめられている日々の実践例を十分活用することで、次年度に向けた具体的な取組を計画していくことが重要となります。

守谷市の子どもたちには、全国と共通した課題もありますが、各学校それぞれに特徴・課題があります。それら実態に応じた取組を進められ、「元気のある」社会人に育つよう力を尽くしていただきたいと思います。

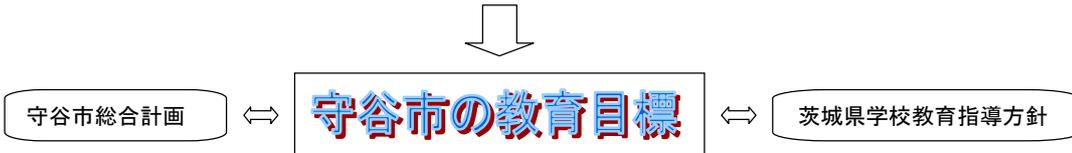
各学校からは、教育活動の成果、児童生徒の活躍や教職員の教育実践等について数多く報告されています。

本年度の各校の真摯な取組に敬意を表しつつ、平成24年度の更なる前進、向上のため、この「守谷市の学校教育」が多くの先生方に読まれ、教育実践の資料として活用されることを期待しています。

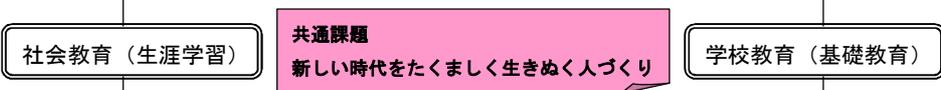
# 守谷市教育全体図

## 守谷市民憲章

- ・ 水と緑に親しみ、自然を愛し、美しいまちをつくります。
- ・ 豊かな心を育て、体をきたえ、健康なまちをつくります。
- ・ 教育文化を高め、個性を伸ばし、うるおいのあるまちをつくります。
- ・ 明るい家庭をきずき、きまりを守り、平和なまちをつくります。
- ・ 互いに助け合い、責任を果たし、生きがいのあるまちをつくります。



- 新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して
- 1 思考力、創造力に富み、正しく判断して実行する人間の育成
  - 2 個性を伸ばし、豊かな心をそなえた、基礎的・基本的な知識をしっかりと身につけた人間の育成
  - 3 生涯にわたって、知識や教養を磨き、社会の発展に貢献する人間の育成
  - 4 家庭・地域の教育力を高め、互いに助け合い、学び合う人間の育成



義務と責任を果たす心豊かな人づくりを推進する社会教育

学力と安全と成長を保障する学校教育

生涯学習課事業

図書館事業

給食センター事業

学校教育課・指導室事業

- 1 豊かな生活をめざした学習機会の充実と人材バンクを活用する。
- 2 学校、家庭、地域社会の連携による教育を推進する。
- 3 学習活動の発表の場及び芸術・芸能鑑賞の場の提供と地域交流の拠点としての公民館活動を推進する。
- 4 健康づくりの推進とスポーツ活動の充実を図る。
- 5 郷土愛を深めるため、文化財の保存及び周知を図る。
- 6 放課後子どもプランの充実と児童の安心・安全の確保に努める。

- 1 すべての市民に、気軽にいつでも気持ちよく利用される図書館を目指す。
- 2 市民の知的欲求を保障し、日常生活に生かすため図書館機能の強化とサービスの充実を図る。
- 3 施設や設備は安全に留意して、誰にでも使いやすい図書館を目指す。

- 1 正しい食習慣の形成、好ましい人間関係の育成、栄養管理と健康増進、食の在り方について教育の一環として給食を実施する。
- 2 学校給食を安全に安定して供給するため、徹底した衛生管理を行う。

- 1 児童生徒が快適な環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図る。
- 2 新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指し、以下の学校教育プランを推進する。
  - ① ステップアップ プラン
  - ② ハートフォーヒューマン プラン
  - ③ ヘルス&フィジカル プラン
  - ④ ニュージェネレーション プラン
  - ⑤ パートナーシップ プラン

# 平成23年度守谷市学校教育プラン全体図

教育プランの目指す教育システム  
 国の改革に対応するとともに本市の実状を踏まえ、市民の要望に応える「教育施策」を実施することで「家庭・地域発の教育の取り組み」を誘発し、市民自らが子どもの教育に関わっていく教育システムの実現を目指す。

守谷市民憲章

守谷市の教育目標

学校教育プラン(平成22年～24年)

取り組むべき重点課題

重点施策

茨城教育プラン

茨城県学校教育指導方針

守谷市総合計画

エンゼルサポートプラン

範囲：学校教育を中心に、家庭、地域の教育力の向上に関する施策

- ・ 水と緑に親しみ、自然を愛し、美しいまちをつくります。
- ・ 豊かな心を育て、身体を鍛え、健康なまちをつくります。
- ・ 教育文化を高め、個性を伸ばし、潤いのあるまちをつくります。
- ・ 明るい家庭を築き、決まりを守り、平和なまちをつくります。
- ・ 互いに助け合い、責任を果たし、生きがいのあるまちをつくります。

- 新しい時代をたくましく生き抜く人づくりを目指して
- 1 思考力、創造力に富み、正しく判断して実行する人間の育成
  - 2 個性を伸ばし、豊かな心を備えた、基礎的基本的な知識をしっかりと身につけた人間の育成
  - 3 生涯にわたって、知識や教養を磨き、社会の発展に貢献する人間の育成
  - 4 家庭地域の教育力を高め、互いに助け合い、学び合う人間の育成

1 確かな学力の育成

2 豊かな心をはばぐむ教育の推進

3 健康と体力をはばぐむ教育の推進

4 新しい時代に対応した教育の推進

推進

5 開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携

I ステップアッププラン

II ハートフォーヒューマンプラン

III ヘルス&デジタルプラン

IV ニュージェネレーションプラン

V パートナーシッププラン

新しい時代をたくましく生き抜く人づくり

# 守谷の教育

## I ステップアップ プラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身につさせることは、学校教育にとって最重要課題であります。確かな学力の育成のためには、児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることが大切です。学校は学習指導要領に基づき、基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成を図るとともに、地域や子どもの実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

- ◇ 基礎的・基本的な知識の確実な習得と指導法の工夫・改善
- ◇ 思考力・判断力・表現力の育成と学習意欲の向上
- ◇ 個に応じた教育の積極的な推進
- ◇ 特別支援教育の充実
- ◇ 読書活動の積極的推進

## II ハートフオーヒューマン プラン（豊かな心をはぐむ教育の推進）

近年、規範意識や道徳性の欠如等の問題が叫ばれています。こうした問題の解決のため、他人を思いやる心や倫理観、責任感等の育成を図り、心豊かな児童・生徒を育てます。

- ◇ 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立
- ◇ 道徳教育の充実と豊かな人間性の育成
- ◇ 「ゼロトレランス」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
- ◇ 一人一人を大切に、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進
- ◇ 教育相談体制の充実

## III ヘルス＆コンジカル プラン（健康と体力をはぐむ教育の推進）

子どもたちの体力低下が著しいといわれています。その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」を進め健やかな児童・生徒を育てます。また、子どもたちの安全は教育活動を支える最重要課題であります。安全についての考え方を子どもたちに周知徹底するとともに、安全確保のための万全な体制をつくり、安全安心の学校づくりを目指します。

- ◇ 体力の向上
- ◇ 健康教育の充実
- ◇ 危機管理体制の確立と安全教育の実施
- ◇ 食に関する指導の充実

## IV ニュージェネレーション プラン（新しい時代に対応した教育の推進）

21世紀を生きる子どもたちには、新しい時代に対応した教育が必要です。守谷市においては、子どもたちが自らの力で将来を切り開いていくために必要な、外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育の充実を図ります。

- ◇ 国際理解教育の充実と英語力の向上
- ◇ 外国語教育の小中連携と充実
- ◇ 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上
- ◇ 環境教育の推進
- ◇ キャリア教育の推進

## V パートナーシップ プラン（開かれた学校づくりと家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。いま、それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。学校は積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、みんなで子どもたちを育む教育のシステムづくりを推進します。

- ◇ 地域社会への授業公開と積極的 情報発信
- ◇ 特色ある学校づくりの推進
- ◇ サポートチーム(生徒指導連絡協議会)による生徒指導体制の充実
- ◇ 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全確保体制の確立
- ◇ 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用
- ◇ 幼・保・小・中・高の連携教育の推進

## 各校の特色ある取組み



平成23年度守谷市小中学校研究主題一覧

学 校 名	教科・領域	研 究 主 題
大井沢小学校	国語	自分の考えをもち、表現できる児童の育成 ～国語科の学習を通して～
大野小学校	全教科 全領域	自分の考えや思いを、自信をもって表現することができる児童の育成 ー地域で支える学校づくりを通してー
高野小学校	算数	できる・わかる喜びを味わい、意欲的に考え続ける児童を育てる指導法の追究 ～学習課題の提示を工夫し、学び合いのある算数の授業づくりを中心に～
守谷小学校	算数	「主体的に学習に取り組み、自分の考えや思いを表現できる子どもの育成」 ～ 算数的活動の工夫を通して ～
黒内小学校	算数 理科	論理的な思考力を中心とした「考える力」を育成する学習指導のあり方 ～算数的活動の充実と個に応じた補充的な学習を通して～ ～実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育てる理科学習指導を通して～
御所ヶ丘小学校	全教科	自分の考えを自分の言葉で表現する力を育てる学習指導
郷州小学校	国語	言語活動を充実し、豊かな表現力を育てる指導の工夫 ～書くこと、伝え合うことを中核として～
松前台小学校	算数	筋道を立てて表現できる児童の育成 ～算数科の授業を中心として～
松ヶ丘小学校	算数	自ら考えをもち、進んで伝え合う児童の育成 ～楽しい算数科の学習を通して～
守谷中学校	全教科	知識・技能の習得や活用を図り、思考力・表現力を育成する指導と評価の在り方 ～自己肯定感と基礎学力の向上を目指して～
愛宕中学校	全教科	分かった感動・できた喜びを味わえる授業の創造 ～生徒一人一人が主体的に学ぶための、学習指導方法等の工夫改善を通して～
御所ヶ丘中学校	全教科	表現力の向上を図る学習指導 ～教科の特性を生かした学び合いの工夫改善を通して～
けやき台中学校	全教科	「主体的に考え、表現しようとする生徒を育成する学習指導の在り方」 ～各教科における言語活動の充実を通して～

## 地域で支える学校づくり推進事業

守谷市立大井沢小学校

- 1 主題 「学校・地域が連携・協力し施設や人材を生かした心豊かな児童の育成」
- 2 推進計画

学 年	活 動 内 容	学 年	活 動 内 容
1 学年	お正月遊びをしよう	4 学年	ボランティア活動
2 学年	町探検・タグラグビー	5 学年	米作り
3 学年	大井沢の自然（野鳥，昆虫） スーパー見学・社会科出前授業 サイエンスキッズおもしろ理科教室	6 学年	福祉体験活動

### 3 実践

#### (1) 身近な地域の人々に学ぶ ―ゲストティーチャーによる授業―

##### ① お正月あそびをしよう（1 学年：生活科）

日本で伝統的に親しまれてきた遊びを体験する学習である。地域の方や保護者に遊び方を教えていただき、馬や羽根つき、メンコ遊びやおはじき遊び、お手玉遊び、あやとり、こま回し等、様々な遊びに挑戦した。今まで知らなかった遊びを体験したことで、知的好奇心が一層高まるとともに、日本の伝統文化に親しむよい機会となった。地域の方や保護者の方々と、遊びを通して交流したことも児童にとって楽しい活動のひとつとなった。



##### ② タグラグビー（2 学年：体育科）

守谷市でラグビーを教えているコーチの先生から、各クラス 1 時間ずつの授業を受けた。ラグビーボールを使ったゲームをしたり、タグ取りゲームをしたりして、チームプレイの大切さを学びながら楽しく体を動かすことができた。

##### ③ 守谷の野鳥についてのお話（3 学年：総合的な学習の時間）

総合的な学習のテーマ「大井沢の生き物と友だちになろう」をもとに、身近な地域の生き物についての学習を進めてきた。学区内の自然探検をした後、小さな鳥の資料館館長の池田昇先生に守谷に生息する野鳥について、貴重なお話をいただいた。剥製を提示したり、貴重な映像や鳥の鳴き声を交えながらの説明や鳥のおもちゃ遊びを体験した。野鳥についての興味・関心が高まった。



##### ④ 大井沢の昆虫についてのお話（3 学年：総合的な学習の時間）

総合的な学習で茨城県環境アドバイザーの石塚先生に地域に生息する昆虫についてのお話をいただいた。貴重な映像や実際に捕獲したトンボを提示しながら説明していただいたので、児童の興味・関心が高まった。身近な自然の豊かさに気付く有意義な学習となった。

##### ⑤ サイエンスキッズおもしろ理科教室（3 学年：理科）

茨城県理科専門員の神立先生の出前授業で「レンズの不思議」について学習した。1 組から 4 組の児童が理科教室において、「ペットボトルで顕微鏡を作ろう」の授業を 1 時間ずつ授業を受けた。専門的な知識をもった方のわかりやすい授業を受けることができた。また、身近な身近な材料を使っての顕微鏡作りにどの児童も身を乗り出して授業に取り組んでいた。多くの児童が帰宅後も自作の顕微鏡でいろいろなものを観察していた。

⑥ 社会科出前授業（3学年：社会科）

「かわってきた人々の暮らし」の学習で、かすみがうら市郷土資料館の学芸員の千葉先生と市民学芸員の出前授業を受けた。昔の道具や人々の暮らしの様子について、お年寄りの体験談を通して、興味深く学習することができた。児童たちは、道具や当時の暮らしについて、進んで質問していた。学習後の新聞作りや巻物作りでは、学習したことを生かしてまとめることができた。



⑦ 米作り（5学年：総合的な学習の時間）

5年生は、立沢里山ボランティアの方の協力を得て、田植えや稲刈りを行った。米作りの苦労や喜びを実感することにより、食についての関心が高まった。

その後、米作りについての調べ学習を行い、理解を深めることができた。また収穫したお米は、家庭科の調理実習で使用した。



⑧ 高齢者福祉についての講話（6学年：総合的な学習の時間）

6年生は総合的な学習の時間において、「共によりよく生きる社会について考えよう」というテーマで福祉について学習している。学区内にある社会福祉協議会の職員の方々と連携をとりながら、ゲストティーチャーによる授業を展開した。内容として、視覚障害者、聴覚障害者の方による体験談を中心とした講話や実際に盲導犬と触れ合ったり、車椅子ユーザーの方と給食を食べたりと貴重な体験をした。児童にとって、講話や触れ合いを通して「今、自分にとってできることは何なのか」改めて考える時間となった。6年生は総合的な学習の時間において「身近な地域の人とともに」というテーマで福祉について学習している。学区内にある社会福祉協議会の職員の方をお招きしてアイマスクや車いす等の体験学習を実施した。児童一人一人が福祉の意味について考えるよい機会となった。



(2) 身近な地域を知る —施設見学—



① 立沢湿地での生き物さがし(2学年：生活科)

2年生が、立沢湿地でザリガニつりを行った。一人一人がザリガニつりを体験し、立沢湿地には、たくさんの生き物がいることに気付くことができた。

② 町探検(2学年：生活科)

2年生が、生活科で学区内の13箇所を訪問した。知りたかったことを質問したり、見せてもらったりして身近な地域の人々との関わりをもち、学校に戻ってきた児童らの表情は、達成感にあふれていた。

③ スーパー見学(3学年：社会科)

徒歩でスーパー「アピタ」の見学をした。店員さんの懇切丁寧な説明により、児童は店で働く人が「物を売る」ために様々な工夫をしていることを知ると同時に、地域の商業施設が自分たちの暮らしを便利にしていることやリサイクル等で貢献していることを理解できた。

(3) 地域に奉仕する —ボランティア活動—

① 学校周辺の清掃活動(4学年：総合的な学習の時間)

4年生が、朝のわくわく授業や道徳の時間を使って、学校周辺の遊歩道の清掃を行った。児童の様子を見た通行中の方から、「ご苦労様。」「えらいね。」などと声をかけられ、嬉しそうであった。「みんなが通る道がきれいになると気持ちがいいね。」という感想も聞かれ、地域を大切にしていこうとする意識が高まった。また、美しい環境を守りたいという思いからポスター作りを行い、学校のフェンスに掲示した。



4 考察

本校は、自然環境並びに社会的環境に大変恵まれている。その恵まれた環境を生かし、「人」や「自然」と関わりをもつ体験によって、児童らは自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けるとともに、豊かな心をはぐくむことができた。今後は、学校からの情報を積極的に地域に発信し、地域との連携を深め、地域に信頼される学校づくりに努めたい。

# 地域で支える学校づくり推進事業

守谷市立大野小学校

## 1 はじめに

本校では、「生き生きと意欲的に活動する児童の育成」という教育目標の具現化に向け、「進んで学習に取り組ませ、表現力の育成に努める」、「異世代・異年齢交流を通して、思いやりのある言動を身に付けさせる」という組織目標を設定し、全教職員一丸となって教育活動を展開している。

本校の所在する大野地区は、地域との結びつきが強く、これまでも様々な形で教育活動に協力をいただいていた。本年度、「地域で支える学校づくり」事業の指定を受け、「地域への誇りと夢を育む学校づくり」という推進テーマを設け、あらためて大野地区住民に教育活動に対する協力をよびかけた。地域の方々に協力をいただきながら教育活動を充実させ、児童に地域のよさに気付かせることを通して、大野地区に誇りをもち、自らの夢や希望を育んでいきたいと考えた。

## 2 実践

### (1) 啓発活動

この事業に協力をいただくにあたり、保護者・地域住民等の学校の教育活動に対する興味・関心を高める必要があると考えた。そこで、協力を依頼する前に、以下の啓発活動を行った。

#### ○ 学校だよりの配付

学校だよりに「大野小だよりに」を自治区の区長に依頼をし、地区に回覧した。

#### ○ ホームページでのお知らせ

学年ごとに担当職員を割り当て、ホームページの頻繁な更新を行った。

### (2) 協力依頼のよびかけ

以下の方針で保護者・地域に協力依頼をよびかけた。

○ 大野地区の人材を広くゲストティーチャーとして公募する。

○ 協力いただいた際には、アドバイザーとして学校教育全般にご意見をいただく。

\* 協力をよびかける際、協力依頼の文書に「地域で支える学校づくり協力書」を添え、連絡を取り合えるようにした。

### (3) 支援の実際

#### ア 登下校時の見守り

保護者や地域の方に、登下校時、交通量の多い交差点で立哨指導をしていただいたり、学校の近くで声をかけていただいたりしている。なかには子どもに付き添って登校してくださる方もいる。子どもたちの安全な登下校に大きな力となっている。



#### イ 読み聞かせ会

毎週、金曜日の朝、読み聞かせ会を行っている。本年度は1学期に12回、2学期に14回、3学期に8回、計33回行われる。ボランティアの人数は12名。ボランティアの方々が集まりをもち、計画を立ててくださっている。週に1回の読み聞かせを子どもたちはとても楽しみにしている。



#### ウ 米づくり〈4年生を中心に：総合〉

食の大切さを実感させるとともに、自然とのふれあい体験を目的に行っている米づくりが、本年度で10年目を迎えた。協力いただいているのは「大野小協力の会」十数名の方々。種まきから田んぼリレー、稲刈り、おだかけ、脱穀、収穫祭と一連の流れのなかで、子どもたちは貴重な体験をしている。



#### エ タグラグビー〈1・2年：体育科〉

1・2年生の体育科において、タグラグビーを行った。指導の支援者として4名のゲストティーチャーに協力をいただいた。タグ取りゲームや鬼ごっこ、ラグビーボールを使ったリレー等、子どもたちはたくさん体を使うメニューを楽しみながらこなしていた。計8時間の活動を行った。



#### オ 昔の遊び〈1年：生活科，クラブ〉

「むかしのあそびにちょうせん」と題して、ゲストティーチャー（9名）にご協力をいただき、昔の遊びを教えていただいた。めんこ、お手玉、竹馬、けん玉、おはじき、ベーごま、はねつき等、夢中で遊び、子どもたちはゲストティーチャーと一緒に楽しいひとときを過ごした。



#### カ 和楽器体験（琴）〈5，6年：音楽科〉

ゲストティーチャー3名にご協力いただき、和楽器体験をした。説明を受け、琴に触れた子どもたち。ほとんどの子が琴に触れるのが初めてのようであった。数曲の演奏の後、最後に、琴と尺八による合奏「春の海」を聞いた。きれいな音色が響きわたり、子どもたちは熱心に聞き入っていた。和楽器への興味関心が高まったようである。



### 3 成果

- この事業を推進するために、学校だよりの配付等、地域への情報発信に努めた。こういった基盤づくりを進めたことにより、保護者・地域住民に対して、本校の教育活動への興味・関心を高めることができたと感じている。
- この事業への協力に、保護者を含めた地域の方から約20名の協力の申しがあった。これまでに協力者をいただいていたの方々を含めると、総勢40名を越す方々に協力をいただいた。

### 4 今後の課題

- 学校の取組を今後も学校だよりやホームページで積極的に発信し、保護者・地域住民に対して教育活動への興味・関心を高め、地域に根ざした学校を目指していく。
- この事業を通して深めた地域とのつながりを大切にし、新たな人材の発掘にも力を入れながら、次年度以降も教育活動に協力を得られるような体制づくりをしていく。

# できる・わかる喜びを味わい、意欲的に考え続ける児童を育てる指導法の追究

## ～学習課題の提示を工夫し、学び合いのある算数の授業づくりを中心に～

守谷市立高野小学校

### 1 はじめに

本校では、「未来を生きるたくましい子どもを育てる」を教育目標とし、具体的には「学力の向上」「豊かな心の育成」「健康な体の育成」をバランスよく行うことが、教育目標の実現になると考え取り組んでいる。本年度は、市教育委員会・教育研究会の指定2年目を迎え、算数科を中心に研究を推進した。

### 2 研究の内容

#### (1) 基本的な考え方

児童が授業中はもちろん、次の算数の授業や生活の中にまで「意欲的に考え続ける」ためには、しかけが必要である。本校ではそれが「できる・わかる喜び」であると考えた。

考えるという活動が単発に終わるのではなく、考えることで問いを解決しさらに意欲がわき、また問いを考えるという連鎖を「意欲的に考え続ける」児童の姿と捉えた。授業の中でこの連鎖が見られることを当初の目標とするが、次の算数の授業、そして生活の中でも見られるようになることを目指したい。

#### (2) できる・わかる喜びを味わい、意欲的に考え続ける力を育てるための手立て

##### ア 学習課題の提示の工夫

授業は教師が計画するものであるから、学習課題は教師が設定するものである。しかしたとえ教師が示した学習課題であっても、問いを自分のものにし、「解いてみたい」と児童が感じるような工夫を「学習課題の提示を工夫」とする。

##### イ 学び合いのある学習過程

児童の考えは、拙く不十分な部分がある。それを教師が説明することで修正していくのではなく、児童どうしで補ったり、深めたりしていく過程を大切にしていきたいと考える。その過程を本校では「学び合いのある学習過程」ととらえることとする。

また、学習形態の工夫として、隣の席やグループになった児童どうしで、分かったことを伝え合う活動を取り入れた。第1～3学年では「おはなしタイム」、第4～6学年では「プレゼンタイム」とネーミングし、普段の他教科の授業の中でも行っている。これは、授業中児童が考えたことを言葉で表現する機会を増やすことと同時に、考えを発表し合うことで、自分の考え方を確かめ、新たな考えを発見できるようにするためでもある。第1～3学年では、まず考えたことを言葉で表現することに重点を置き、第4～6学年では必要に応じて、ノートに書いた図や式などを使って説明することを大切にしていく。

### 3 研究の実践

#### (1) 算数の授業の工夫改善

##### ① 学年の職員全員で取り組む授業

全学年で研究授業を実施した。研究授業を行うのは、学年の代表1人であるが、その前に学年ブロックで内容を検討し、当該学年の職員全員が事前授業を行った。授業の反省をし、授業法の改善を行い、学年代表が提案授業に臨むようにした。

##### ② 算数コーナーの設置

各学級に算数コーナーを設置し、直前の授業で使用した教材を掲示し、既習事項を生かした授業が展開できるようにした。また、多目的室やオープンスペースには、以前の単元で使用した教材、児童の作品を掲示して、学習した内容の関心を高めるようにした。

##### ③ ノートの充実（ノート展）

児童が他の人のノートを目にして、自分のノートに取り入れる機会を作ることを目的とした。自分の言葉で書くことを重視し、1学年上のノートも見るようにした。

##### ④ 支援を要する児童の指導方法の工夫改善

###### ア 少人数指導の工夫

第4. 5. 6学年を対象とし、算数の時間は少人数指導を行った。形態は右表のように、1学期あたり2学年ずつ実施した。各学期、重点学年を決めて、重点学年は週5時間をすべて少人数指導で実施し、他の学年は週2時間のみ実施した。

学期	重点学年	実施学年
1	第6学年	第4学年
2	第4学年	第5学年
3	第5学年	第6学年

## イ 「学びの時間」の取り組み

算数の基礎学力の定着、全体のレベルアップを目的とし、今年度より毎月第4・5水曜日の6校時の裁量の時間に実施した。指導は下表の通り全職員で行った。内容は、プリント問題（補充・基礎基本・応用・発展）、計算ドリル、教科書指導書の基本問題を活用した。

あらかじめ学習内容を自己選択し、自己採点することを基本とした。担当教師がつまづいている児童を中心に指導できるようにするため、内容や習熟度で学級を越えたグループ分けも実施した。

全職員で指導に当たる「学びの時間」



表 全職員で行う「学びの時間」

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
担 当	学 級	担任・副担任			担任 第2学年職員 少人数指導担当	担任 第3学年職員 教務主任	担任 第1学年職員 音楽主任
	支 援				校長または 教頭・養護教諭	特別支援担当	特別支援担当

### (2) 授業の実際

#### ① 学習課題の提示を工夫（1年）→考え続けることのできる教材

児童には、黒板に数の抜けた表やパズルを見せることで、本時に対する意欲を高めることを狙いとした。また、この学習問題については最初から黒板に示さず、表の一部やパズルのピースを見せていく中で、児童から「やってみよう」「こんな勉強をするんだ。」という言葉を引き出そうと考えた。

また、なぜその場所に選んだピースが入るのか説明するよう促し、パズルを作っていくなかで、わざとピースを抜かしたり、いろいろなパズルの形を用意したりして、児童に揺さぶりをかけた。

#### ② 学び合いの工夫（5年）→ プレゼンタイム

考えの類型化を図るために、児童が作成した求積カードを自分の考えと似ている考えのところに掲示した。類型化した求積カードを使って求積方法を説明させ、自分の考えとの相違点を意識しながら聞かせ、意見交換をする中で共通事項を見つけることができた。

自分の考えを説明したり、考えのヒントを与えたりする活動を通して、自分の考えをより明確にする。

1から120までの数の表を作る



プレゼンタイム



### 4 成果と課題

学習課題の提示を工夫し、学び合いのある過程を取り入れることを通して、できる・わかる喜びを味わい、意欲的に考え続ける児童を育てる算数科学習指導法を追究した結果、間違ふことに躊躇せず授業中に発表する児童が増えてきた。授業の中で「考え続ける」姿の現れであると考え。これは、拙い児童の言葉やつぶやきを教師が価値付けて授業の中で生かし、「お話タイム」「プレゼンタイム」のなどを経て学級全体で意見の交流を行ったり、児童がICT機器を活用して発表したりすることで、「できる・わかる」経験を積み重ねて、自信をもつことができるようになったと考える。

教師の側も、日頃から児童が取るノートを意識した板書を行い、定期的にノート展を実施することで、児童がノートの大切さに気付き、ノートに自分の考えを書き込んだり、前のノートを見たりするようになってきたことも忘れてはならない。このことは、児童が新たな課題にあったときに、自分の書いたノートを見ること、つまり「既習事項を活用する」という方法で考え続けることができるようになったことである。

また、何よりも算数の授業に臨む教師の意識が向上した。教材研究に裏付けされ、課題提示をどう工夫するか、児童に何を考えさせ、何を学ばせるかの視点を常にもって日常の授業に臨むようになった。授業力が少しずつでも向上し、日頃から児童を育てる視点が目的意識化されたことも研究の成果である。

本研究を基に、考え続けることができる児童を育てていくためには、さらに次の課題が考えられる。

- ・まちがいが受容される学級づくり。
- ・児童のつぶやきを適切に取り入れ、授業の組み立てを修正できるだけの教材研究と授業力を身につける。
- ・個に応じた指導の充実。特にチーム・ティーチングのあり方と少人数指導のあり方。

# 主体的に取り組み、自分の考えや思いを表現できる子どもの育成 ～ 算数的活動の工夫を通して ～

守谷市立守谷小学校

## 1 はじめに

本校では、『進んで学び、心豊かで、たくましい児童の育成』という教育目標の具現化に向け、「確かな学力の向上」、「豊かな人間性の育成」、「体力の向上」に全職員で取り組んでいる。

なかでも「確かな学力の向上」は、学校の最も重要なテーマであり、算数科を中心に研究に取り組んできた。算数科では、3年生以上で少人数指導を取り入れ、児童の実態に合わせた指導を行うことで基礎基本の定着を図っている。

## 2 研究テーマの設定の理由

県の学力診断テストや全国学力調査等の結果から基礎的・基本的な知識や技能については、ある程度定着しており、指導の成果が上がっていることがわかる。一方で、その基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの力が十分でないことも分かった。そこで、算数的活動の工夫を通して主体的に取り組む態度を育てるとともに表現力を高めたいと考え、本研究のテーマを設定した。

## 3 研究の仮説

算数の授業において、算数的な活動を工夫し、様々な形態での伝え合う活動を経験させることを通して、授業に主体的に取り組むようになり、自分の考えや思いを表現できるようになるであろう。

## 4 研究の内容

### (1) 各研究部の取り組み

#### ① 授業研究部

##### ア 算数科で目指す児童像

1年	具体物や絵・図を使い、わかっていることをもとにして、自分の考えや思いを発表することができる。
2年	具体物や絵・図・式・言葉等を使い、わかっていることをもとにして、自分の考えや思いを説明することができる。
3年	絵や図・式・言葉等を活用しながら、わかっていることをもとにして、自分の考えや思いを説明することができる。
4年	絵や図・式・言葉等を活用しながら、わかっていることをもとにして、適した方法で自分の考えや思いを説明することができる。
5年	絵や図・式・言葉等を活用しながら、根拠をもとにして、適した方法で自分の考えや思いを説明することができる。
6年	絵や図・式・言葉等を活用しながら、根拠をもとにして、よりよい方法で自分の考えや思いを説明することができる。

イ 授業提案書の内容の見直し

ウ 研究協議の持ち方の改善

エ 発表の仕方、話し合いの仕方マニュアル作り（話アイアイカード）

#### ② 調査資料部

ア 実態調査

イ 算数科の学習技能の系統化

ウ ノート指導の見直し

### ③ 学習環境部

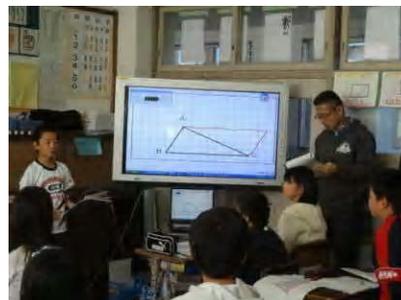
- ア 家庭学習の手引きの見直し、使い方の検討
- イ 学年に応じた家庭学習カードの検討
- ウ 教室環境、廊下掲示などの検討

### (2) 授業研究

- ・本年度は、7回の授業研究を行った。
- ・事前 学年内での授業提案書の共同作成  
他のクラスや他のコースで事前授業
- ・事後 ワークショップ型のグループ協議  
講師による指導

<平成23年度授業研究計画>

	期日	学年	単元名(コース)	授業者
1	9/28	特別支援	「あまりのあるわり算」	大熊,田谷茂呂,高原
2	10/5	3年	「あまりのあるわり算」(チャレンジ)	岩田
3	11/9	6年	「場合の数」(チャレンジ)	藤原
4	11/22	5年	「四角形と三角形の面積」(しっかり)	中村
5	12/7	1年	「ひきざん」	原野
6	1/18	4年	「台形,平行四辺形,ひし形」(ぱっちり)	菊地
7	1/25	2年	「かけ算九九のひょうをしらべよう」	滝



<5年生の授業>



<2年生の授業>

## 5 成果と課題

### (1) 成果

<児童>

- ・ペア、グループ、全体といった様々な形態で、自分の考えを伝える活動を通して、発表への抵抗が少なくなり、進んで発表できる児童が増えてきた。
- ・発表の仕方や話し合いの仕方のマニュアルを効果的に使って自分の考えを表現できるようになってきた。

<教師>

- ・授業提案書を共同作成したり、事前の授業を行ったりすることで、様々な授業の展開を検討することができ、授業力の向上に繋がった。
- ・ワークショップ型のグループ協議を取り入れることで話し合いが活性化し、職員一人一人の学びが深まった。
- ・授業研究を通して、ICT機器や教材、教具の効果的な活用法を共有することができた。

### (2) 課題

<児童>

- ・発表については、個人差が大きく、苦手意識を持っている児童も少なくない。苦手な児童には、個別に発表の仕方を指導したり、自信を持たせる言葉かけなどをしていく必要がある。

<教師>

- ・研究授業だけでなく、日常的に学年内で相互授業参観ができるようにしていきたい。

# 「考える力」を育成する学習指導の研究

守谷市立黒内小学校

## 1 はじめに

本校の学校としての組織目標は、「個に応じた学習指導の工夫改善に努め、分かるからできるへの変容を図る。」  
「知と徳を支える健康に留意し、運動の習慣化を図り、健康や体力を育む。」である。本年度は、市教育委員会の指定と茨城県の小学校教科担任制モデル事業の指定を受け、「算数的活動を通して基礎基本を身につける指導の研究」を研究テーマとして伝え合う力を伸ばすために『論理的な思考力を中心とした「考える力」を育成する学習指導の在り方』を柱に、算数と理科を中心に校内研修を進めてきた。

## 2 研修のねらい

- (1) 児童の学力向上（国語・算数を中心に）を目指して児童の実態を把握し有効な手立てを講じるとともに、研修を通して教師の指導力を高める。
- (2) 電子黒板やデジタル教科書の積極的な活用を通して、「分かる授業」の工夫・改善を図る。
- (3) 体育の授業はもちろん、学校生活全体を通して体力向上を目指した環境整備の工夫により、積極的に運動に親しもうとする児童の意欲の喚起を図る。

## 3 本年度の実践

### (1) 学習指導研究部

#### ① 授業研究

##### ア 校内授業研究と学習環境整備

- ・電子黒板とデジタル教科書の活用による前時学習の復習と課題把握をスムーズに行うことができた。
- ・自力解決の場면을工夫し論理的な思考を育てるため、考え方を図で表し言葉でも説明できるようにノートにまとめられるようになった。（ノート指導の工夫）
- ・算数的な考えや基礎学力の定着を図るため、遊びや体験を通して楽しく学ぶ算数コーナーの充実を図った。



(階段の利用)

(電子黒板による児童の発表)

(算数コーナー)

### イ 小学校教科担任制モデル事業

- ・デジタルコンテンツや動物の内臓などを教材とすることで実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育てるために具体的な観察・実験を行なった。
- ・デジタルカメラで実験結果を撮影し、実験記録とともにノートに添付しておくことで、学習の振り返りに有効な活用ができた。
- ・実験結果を考察する過程が、「個人→グループ→学級全体」という伝え合いの場として機能してきた。
- ・観察・実験での考察段階で、自力解決から話し合い活動を充実させるためのノート指導を徹底することで、児童一人一人の記述の変化や話し合い活動に変化が見られた。
- ・夏季休業中の自由研究のための手引きを作成することで、科学研究作品展への関心が高まり参加数や入賞作品が増えた。
- ・校内ビオトープの整備や科学クラブを設立することで、児童の科学に対する興味や関心が高まり探求心や創造力が高まった。
- ・授業に対する教師の意識の変容が見られ体験的な活動を多く取り入れた授業が行われるようになり、教師の指導力の向上が図られた。



校内ビオトープの整備

校内掲示の一例(ヘチマの美)

電子黒板・デジタル教科書

② 漢字博士テスト、計算博士テストの充実 **(基礎学力定着のための取り組み)**

- ・事前に出題範囲のプリントを配布し、その中から学年に応じた問題数で年間に5回実施した。結果を「がんばりの記録」に記入し、児童自身に足跡を確認させたり、家庭との連携を図ったりした。また、テストの結果を分析考察することにより、家庭学習(反復学習)のさせ方の見直しを図った。

③ ぐんぐんタイムの充実 **(児童の学ぶ意欲高揚を図る取り組み)**

- ・算数科におけるさかのぼり指導を、「ぐんぐんタイム」の名称でチャレンジタイムに実施した。開始前にチェックテストを実施し、結果を家庭に返却して習熟度別学習の希望コースを親子で決定してもらった。
- ・「ぐんぐんタイム」の児童と教師による評価を実施した。その結果を考察し、チェックテストの内容や学習プリントの内容など、次年度の実施方法についての検討を行った。

(2) 体力研究部

① 体力向上に向けた各種コーナーの設置

- ・握力を高めるため校舎内の各階にハンドグリップを設置し、いつでも楽しくチャレンジができるようにした。
- ・投げる力を楽しく向上させるため、体育館に投てきコーナーを設置した。また、上手な投げ方を身に付けさせるため、フォームロケット(投げ方を身に付けるための練習器)を体育の授業に導入した。
- ・縄跳びジャンプ板を玄関前に設置し休み時間や放課後いつでも記録にチャレンジできるようにした。

② 長縄跳びの学級記録掲示板の設置並びに体力テスト記録掲示コーナーの設置

- ・児童の意欲を喚起するため設置した各記録掲示板は、児童の中で話題になり、記録を意識し目標とする児童が増加し、練習に励む姿を数多く見ることができるようになった。

4 研修の成果と課題

(1) 成果

- ITCや電子黒板、デジタルカメラの活用により、児童の学習意欲の高揚が図られた。
- 地域の人材を有効に活用したり、体験的な学習活動を積極的に実施したりすることで、児童の学ぶ意欲が高まり学習に取り組む態度に変化が見られた。
- 指定研究を受け校内研修を行うことで、授業力の向上が図られ、「意欲的に取り組む授業」「わかる授業」「個に応じた指導」「伝え合う力を高める指導」に対して研修が深まり指定研究以外の教科にも工夫改善が図られた。
- 各研究部の様々な実践により、学習においても運動においても、児童が自主的に取り組むようになり、意欲を向上させることができた。

(2) 課題

- 「聞くこと、話すこと」(伝え合う力)を高め、「考える力」を付けるために全教科・領域の指導を通してスピーチ力やノート指導の充実を図る研修が必要である。
- 算数的活動を十分に取り入れることにより学習への意欲を喚起し、基礎基本の定着を図り、学習内容を生活の中に活用しようとする態度を養うことができるような、算数科の研修を進めていきたい。
- 今後も継続的に教材やその提示方法を工夫していくことにより、実感を伴った理解を図り、自力解決力をつける見方や考え方を育てるとともに、観察・実験における結果や考察を切り分けて表現するノート指導をさらに進めることにより、論理的な思考力の育成を目指す。
- 年間を通して、科学に対する興味・関心の向上を図るために、校内の理学的環境の整備を進めるとともに、科学に関する情報の発信を学校全体で効果的に行う。

# 地域の教育力を活用した魅力ある学校づくり

守谷市立御所ヶ丘小学校

## 1 はじめに

本校では、今年度の組織目標「ねらいを明確にした教育活動を通して、確かな学力を付け、自己有用感をはぐくむ。」の具現化に向け、知育・徳育・体育部会ごとにグループ目標及び具体的施策を設定し、全職員で取り組んでいる。

これらを実践し、組織目標が目指す児童の姿に近付くために、地域の優れた教育力、特にマンパワーを生かすことは、魅力ある開かれた学校として地域の信頼を得ることに直結する。

そこで、本校では、特色ある学校推進事業として「地域の教育力を活用した魅力ある学校づくり」を推進テーマに、以下の三つの実践について重点的に取り組んだ。

## 2 実践

### (1) 学校支援ボランティア（以下、学ボラ）組織の再構築と継続的な実施

#### ア 本校教育計画に沿った各学年ごとの学ボラ活用場面の事前調査

年度当初に、教員に対してどのような学ボラの活用希望があるのかを調査した。その結果を次の四つの内容にまとめた。

① 読み聞かせボラ：朝読書の時間（毎週月・水・木）のいずれかの日に学級を訪問し、絵本の読み聞かせを実施

② 園芸ボラ：園芸関係の作業の協力（春夏）

③ 専門ボラ：学ボラの専門性を生かした講話・実演・実技指導（通年）

④ 教科ボラ：各学年各教科等の活動時の支援（通年）

#### イ 学ボラ新規募集の情報発信と本校教育計画に適した人材に関する情報収集

○学ボラ新規募集については、保護者に対しては通知で呼びかけを、地域に対しては学区内全地区に回覧をした。この情報発信による学ボラ登録者数は、20人（平成24年2月末現在）、その他、登録はしてなくても、各学年ごとの各活動の学ボラ募集において、その都度参加した保護者も40人以上にのぼった。

○本校教育計画に適した人材に関する情報収集については、登録者の中に該当する学ボラがない場合には、出前サロンの高齢者（以下、サロン）やPTA本部役員及び運営委員、学校運営協力員などから情報を得て、適した人材に直接交渉し学ボラを依頼した。今年度は、第4学年において俳句に詳しい学ボラの希望があったために、サロンで紹介された俳句指導者を招聘し、俳句づくりの支援をもらった。

#### ウ 学ボラ登録者数・参加延人数と活動状況（平成24年2月末現在）

○登録者数：20人（本校保護者15人、地域在住者5人）

○参加延人数：140人以上

○活動状況：① 読み聞かせ（毎週月・水・木曜日に低中学年で計48回実施）

② 園芸支援（本校HPにて募集し、苗移植作業などを随時実施）

③ 専門分野

第6学年保健体育科「薬物乱用防止」の講話

④ 教科

・第1学年生活科「公園探検」での安全確保の協力

・第2学年生活科「町探検」「ポップコーンづくり」の協力

・第3学年社会科「コース別学校周辺調査」の班ごとの付添

・第4学年国語科「夏の季語の俳句をつくろう」の支援

・第5・6学年家庭科「ミシンを用いた小物の製作」の支援



①の「読み聞かせ」



③の専門「薬物乱用防止」



④の「国語科俳句」

- (2) 校内教室を利用した出前サロン御所ヶ丘の高齢者（以下、サロン）との交流
- ア 学校行事「ごしょまつり」における「伝承遊び」の場の設定  
「ごしょまつり」のわくわくタイム（ワークショップ型活動）において、サロンに「伝承遊び」体験コーナーでの指導を依頼した。児童は「お手玉」「ビー玉」「めんこ」などの遊び方の指導を高齢者から受け、伝承遊びを通して交流した。
- イ 第3学年社会科「かわってきた人々の暮らし」での場の設定  
○交流1「昭和初期の生活・道具・遊び」についての聞き取り調査  
事前に、第3学年社会科の学習内容を伝え、昭和初期の生活や道具、遊びについて、児童に話してもらえようように依頼した上で、3年児童がサロンに出向いた。当日は、10人の高齢者がそれぞれの思い出を交えたり、鯉節削り機やキセルなどの本物の道具を持参して使い方を説明したりしながら、児童に話をしてくれた。児童は、熱心にメモを取りながら話を聞いたり、用意しておいた質問をしたりして交流した。  
○交流2「昔の暮らし」発表会への招待  
児童がサロンでの聞き取り調査やその他の情報を基に、各グループごとに調べた内容をまとめた発表会を行う際に、サロンの高齢者を招待した。当日は、交流1において話をした方の他にも、多くのサロンの高齢者が児童の発表を聞いて、賞賛の感想を述べてくれた。児童は、お礼の手紙を一人一人の高齢者に渡し、謝意を伝えた。
- ウ 「いきいきヘルス体操ばたか（シルバーリハビリ体操）」の体験  
日頃、サロンが実施している「ばたか」を運動会において児童と保護者に紹介してもらい、指導士・高齢者とともにリハビリ体操を体験する活動を通して交流をした。
- (3) 保幼小・小中連携教育事業における幼稚園年長児・中学生との交流
- ア 第1学年生活科「あきとなかよし」の「あきまつり」での場の設定  
本校では、保幼小連携教育事業の趣旨である、小学校以降の子供の学習や生活を豊かにするための幼稚園・保育所と小学校の円滑な接続を目指し、隣接する二三ヶ丘幼稚園年長組園児との連携を深める場を設定した。  
当日は、第1学年の生活科「あきとなかよし」において、「あきまつり」に二三ヶ丘幼稚園を招待し、まっぼっくりやどんぐりなどの実を利用した「リースやさん」「どんぐりとはっばのおみせ」「ダーツゲーム」などの店を開いて交流した。1年生は、自分たちより幼い年長組園児に対して、どうすれば楽しく過ごしてもらえるかなどを考え、本活動や体験を通して生活科が目指す自立への基礎を養うことができた。
- イ 本校児童と御所ヶ丘中学校生徒との交流  
御所ヶ丘中学校の生徒・教師が低学年の体育や算数の学ボラをしたり、6年生に中学校生活を紹介したり、中学校教師が理科の体験授業をしたりして交流をした。児童は、中学校への憧れを抱くとともに、活動に取り組む姿勢が一層積極的になった。



(2) ア「伝承遊び」



(2) イ「昔の暮らし」



(3) ア「あきまつり」

### 3 考察

「地域の教育力を活用した魅力ある学校づくり」を推進テーマに、以上の三つの実践について重点的に取り組んだ結果、次のことが明らかになった。

- (1) 地域の優れた教育力（マンパワー）を生かすことは、児童の学習活動を豊かにし、学びの質を高め、各教科等が目指す児童の姿に迫る手立てとして効果がある。
- (2) 学校評価では、学ボラについて「取組が進んだ・成果が上がった」と回答した教員が全体の85%以上、保幼小・小中連携については90%以上おり、指導者自らが成果を実感している。また、保護者も、学ボラの活用について95%が「当てはまる・やや当てはまる」と回答しており、本校の取組への理解が示されたといえる。

### 4 課題

- (1) 本校教育計画に沿った更なる地域人材の確保とより効果的な指導計画と活動の明確化  
(2) 高齢者、保幼小・小中の一層の綿密な企画運営とねらいに迫るための場の設定

## 地域人材を活用した開かれた学校づくり

守谷市立郷州小学校

### 1 はじめに

本校では、家庭・地域との関わりや連携を深めるために学校支援ボランティア（保護者や地域のスクールサポーター、ゲスト・ティーチャー）を積極的に採り入れ、地域の教育力を生かした学校づくりを進めている。また、学校内における様々な活動や取り組みを積極的にホームページ等で発信することで開かれた学校、保護者や地域の人々の理解と信頼を得る学校づくりを目指し取り組んでいる。

### 2 実践

#### I 学校支援ボランティアの積極的活用

##### (1) 協力体制作り

##### ① 学校支援ボランティアの募集

本年度は、「学習」「環境」「行事」「クラブ」「防犯」の5つの分野で協力を得るために、保護者や地域の方々へ活動の紹介と募集の文書を配付し、ボランティアへの登録と協力を依頼した。

##### ② サポーター会議の開催

登録されたサポーターの方々とは本校全職員による全体会議の後、各分野に分かれ、あらかじめ各担当の職員が作成した活用計画に基づいて、活動内容や予定を確認し、組織作りや連絡方法について話し合いがもたれた。

##### (2) 各分野の活動実践

#### 【学習サポーター】

学年	教科・領域	活 動 内 容
1年	生活科 生活科 国語	畑の先生：サツマイモの苗植え 昔のあそび：教示・学習補助 本となかよし：ブックトーク、読み聞かせ
2年	生活科 算数 体育	まち探検：付き添い・見守り・学習補助 かけ算九九：学習補助 運動会ダンス指導
3年	総合 社会	町探検：付き添い・見守り・学習補助 スーパーマーケットの見学：付き添い・学習補助
4年	図工 算数 総合	のこぎりギコギコ：教示・学習補助 角度を測ろう：学習補助 子ども向け環境プログラム「キッズミッション」
5年	家庭 特活	ミシンの操作：学習補助 介助犬について：講話・福祉体験（アイマスク体験）
6年	家庭 特活	ミシンの操作：学習補助 もちつき体験：準備・体験補助

上記の表は、活動のほんの一例である。このように、本年度も様々な学習場面において、学習サポーターの方々にご協力をいただいた。

多くの方々の目が学習活動の中に入ることによって、なかなか担任一人では行き届かない所へも支援の手が届き、きめ細やかな教育に大変有効であった。また、学習面ばかりでなく、

児童が多く地域の方とふれあうことができるよい機会でもあった。



### 【環境サポーター】

右の写真は環境サポーターの手による掲示物である。掲示物は季節に合ったものや、児童の興味・関心を引くもの、そして学習に役立つクイズなど、様々なバリエーションがある。掲示物が変わるたびに、児童はその場に足を止め真剣に読みいる姿が見られる。七夕の時期には、本物の笹が用意され、多くの児童が短冊に願いを書きこむなど楽しんでいた。



### 【防犯サポーター】

児童の下校時刻に合わせて、青色パトカーによる巡回指導を行っている。月・火曜は地域老人会サポーターによる巡回、水・金曜は保護者サポーターによる巡回というように、常に児童の下校時の安全を支える大きな力となっている。



### 【クラブ活動・行事サポーター】

パソコンクラブや手話・指点字クラブ、卓球クラブなどでは、サポーターの専門性や技能を生かして活動に参加していただいた。おかげで、児童もそれぞれの活動においてさらに深く取り組み、技能を身に付けることができた。

行事では、今年度は放射線量等の問題もあり、例年とは少し違った形で実施したため、昨年よりサポーターの活用は少なくなってしまう。しかし、GOGO 郷州（学習発表会）の午後に行われる保護者や地域の方との「ふれあいタイム」では、地域の老人会『ペタンククラブ』の方に参加していただき、優しく競技を教えてもらいながら一緒に活動することができた。



## II 開かれた学校づくりにむけて

### (1) 積極的な情報の発信

現在、学習支援等へのサポートの依頼に関してはメルマガを利用して行っている。どの学年がどのような学習を進めていて、いつ頃にこんなサポートを何人でお願ひしたい、というような情報を発信し、サポートに入る前の学習の様子を知らせている。

また、ホームページを児童の活動が見えるようにリニューアルするとともに、常日頃から学年・学級便りを通して児童の学習の様子や学校生活について発信し続けることで保護者や地域の方の学校への理解や協力、そして信頼を得るよう努めている。

### (2) 様々な交流活動

#### ① 「みずき野幼稚園」との交流

##### ア ハロウィーンパレード<10月>

衣装をした園児たちが、本校の昼休みの時間に合わせグラウンドをパレードした。

##### イ 小学校見学<2月>

みずき野幼稚園の年長組の園児たちが、本校を訪れ1年生の生活科、4年生の理科の実験、2年生のなわとび記録会を見学した。

#### ② 「元気サロン」との会食会

毎月第4金曜日には、「元気サロン」に通うお年寄りと6年生が給食をともにしている。会食後は、お年寄りとの会話を楽しむなど和やかに交流をしている。



ふれあい会食会の様子

## 3 成果と今後の課題

毎年、保護者や地域の方々にはたくさんの協力をいただいている。そんな中で、児童は多くの体験や交流を行い、学習活動も充実している。今後は、児童が校外に出て積極的に地域に関わり、何か還元できるような活動をしていきたい。

# 特色ある学校づくり推進事業

守谷市立松前台小学校

## 1 はじめに

本校では、「自らの力を拓き、心豊かにたくましく生きる児童の育成～一人一人の子どもが楽しいと思える学級・学年・学校をつくろう～」の学校教育目標達成のために、「自ら進んで学ぶ子を育てる・目標に向かって努力する子を育てる・心豊かな子を育てる」を教育推進の重点事項としている。また、今年度は「特色ある学校づくり推進事業」の指定を受け教育活動を展開してきた。

学校目標

### 自らの力を拓き、心豊かにたくましく生きる児童の育成

あかるい子	かしこい子	たくましい子
<ul style="list-style-type: none"><li>・ きまりのある生活</li><li>・ 思いやりのある心</li><li>・ 郷土を愛する心</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 進んで学ぶ心</li><li>・ 自分で考える力</li><li>・ みんなで考える力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 健康な体に心がける子</li><li>・ 強い心をもっている子</li><li>・ 働く意欲のある子</li></ul>
目指す教師像		
実践力のある教師	自覚と誇りをもつ教師	認め合い高め合う教師

特色ある学校づくり推進テーマ

### 外国語活動を中心とした特色ある学校づくり

## 2 実践

### (1) コミュニケーション能力を高め、楽しく学び合う授業づくり

#### ア 教師の授業力を高め、楽しく学び合う授業づくり

まず、「英語活動・外国語活動」の授業の進め方とねらいの共通理解を図るために、校内研修を行った。担当が10月31日～11月2日に教員研修センターに於いて、「小学校外国語活動指導力向上研修講座」で、外国語活動の指導と評価・校内研修に関する研修を行ってきたので、その出張報告をし、指導と評価の在り方についての共通理解を図った。さらにコミュニケーション能力を高めるための具体的な方法について第5学年で授業公開し、その内容についての協議を行った。

授業の始めに行うあいさつゲームでは、ALTとのあいさつの後にグループのリーダーが簡単な質問をして、グループのメンバーがそれに答えるという活動を行った。その際のALTやHRTの役割を明確にしてきた。あいさつゲームが終わった後には、歌やチャンツで体を動かして、英語のリズムに慣れる活動をする。その後、机に戻り、今月のテーマや、授業のめあて（目指す姿）を確認する。また、グループでの発表を行う際には、やりとりができる英語の表現をALTに教えてもらって繰り返し使用できるようにした。また、答える際には順番などルールを決めることによって様々な児童が活躍する場を作ってきた。ゲームでは、児童同士の相談や協力ができる内容を考えるようにしてきた。

【実際の授業の様子】

あいさつゲーム	授業のめあての確認	グループで行うゲーム
		

イ 外国語の音声や表現に慣れ親しませるための教材・教具の整備

茨城県教育庁義務教育課から出された「歌と遊びで英語のシャワー」を授業で活用するとともに、給食の時間の学校放送で毎週金曜日を「英語の日」として「マザーグース」などの曲を流し英語の歌に親しんだ。

また、活用しやすいような教材・教具の配置を工夫した。英語のカードをカテゴリー別に分けて、いつでも使えるようにした。使用するカードの保管も引き出しを使用し、様々な学年が使いやすいようにしている。また、授業の中でレストランでの注文をするなど具体的な場面を設定し、より多くの児童が体験できるように、教材を数多く準備した。

外国語活動ルーム（５・６年）	カード類の保管の様子	イングリッシュボード
		

(2) 各教室へのワールドコーナーの設置

教室の空きスペースを有効活用し、ワールドコーナーを設置している。張替えしやすいコルクボードにその月のテーマに関する絵や英文などを掲示して、常に目にできるようにした。また、中学年では、各教室に調べ学習で使用する様々な国に関する本を置き、活用できるようにした。

3 考察

「コミュニケーション能力を高め、楽しく学び合う授業づくり」に取り組んできたところ、まず担任の英語・外国語活動への意識が変容してきたように思う。学級の実態を踏まえたコミュニケーション活動ができるようにゲーム内容を見直すなど、積極的な取り組みがあった。その結果、グループ活動の中で児童同士が助け合う姿や、進んで活動に取り組む姿が多く見られるようになった。また、活用しやすい環境作りをしたことで、豊富な資料の効果的な使い方ができるようになった。

4 課題

校内研修をさらに進め、児童のコミュニケーション能力の向上が図れるような教材・教具の開発やゲームの内容の見直しを図っていくと共に、今年度実施できなかった、異なる文化をもつ人々との交流活動の実施に向けて、計画的に進めていきたい。

## 特色ある学校づくり推進事業

守谷市立松ヶ丘小学校

### 1 はじめに

本校では、「—新しい時代を生きぬく人づくりをめざして— 豊かな心を持ち、自ら課題を見つけて学習し、健康でたくましく生きる子どもを育てる。」の学校教育目標の達成のために、「確かな学力を身につけさせるための教育」・「豊かな心をはぐくむ教育」・「健康や体力をはぐくむ教育」・「社会の変化に適応に対応できる教育」・「自立と社会参加を目指す特別支援教育」を教育推進の重点事項とし、また、昨年度では「特色ある学校づくり推進事業」の指定を受け特色ある学校づくりのために教育活動を展開してきた。

### 学校教育目標

**豊かな心を持ち、自ら課題を見つけ学習し、健康でたくましく生きる児童を育てる**

すすんで

学習する子

- ・目標をもって学習に取り組み、最後までやりぬく子

思いやり

のある子

- ・互いに認め励まし合える子

たくましい子

- ・運動に親しみ元気でねばり強い子

### 2 実践

#### (1) 算数科における授業研究

ア 市指導室、研修センターの校内支援事業、校内授業研究において研修テーマを「自ら考えをもち進んで伝え合う児童の育成」で算数的活動の充実を通じた数学的な考え方を踏まえた算数の授業の進め方について授業研究を進めた。

【聴く態度】のめざす姿

低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話す人の方を見て聞く。</li> <li>○うなずいたり首をかしげたりするなど、反応しながら聞く。</li> <li>○聞いたことを自分のことばで繰り返すことができる。</li> <li>○聞いたことに対して感想を言うことができる。自分が思ったことを、</li> </ul>
-----	---

中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分からない所は質問をすることができる。</li> <li>○自分の考えとの相違点を言うことができる。</li> <li>○ノートにかいた自分の考えに付け足したり、修正したりできる。</li> </ul>
-----	---

高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気付いたことをアドバイスすることができる。</li> </ul>
-----	--



4年2組(提案授業)



4年3組(提案授業)

(2) 健康や体力をはぐくむ教育の推進

業間休みを体力向上づくりとして年間を等して実施してきた。月曜日、火曜日、金曜日に持久走や縄跳びを実施して体力向上を進めた。今年度は、体力テストで投げる運動が低い傾向にあるため、ボール投げ運動も取り入れて実施をした。また、高学年は始業前に持久走、長縄跳びを行い運動に親しむとともに体力向上につなげた。1年間を継続して行うことで、体力テストの結果も昨年度より一段と向上した。



業間の体力向上(縄跳び)



始業前の体力向上(長縄跳び)

(3) のびのび下校の実施(児童と向き合う時間の確保)

水曜日、木曜日、金曜日ののびのび下校として、児童と向き合う時間を確保した。

ア 教育相談の実施

日頃、時間がなく、じっくりと児童と話をする機会がないため、放課後の時間は大変有効につかうことができ、児童理解につながった。

イ パトロールの強化

学年ごとでの青色パトロールでの巡視を行い児童の安全確保を心がけた。

ウ 補習的な学習の実施

学年や学級で放課後を利用して補習的な学習を進めた。特に算数の計算や宿題等でつまづいているところの学習を行った。

(4) 食の教育の充実

ア 各教科、総合的な学習の時間等年間指導計画への位置づけ

イ 栄養指導

給食センターから配布された栄養指導資料をもとに、栄養や食物についての知識や関心が高まった。

(5) 古典にふれる活動の推進

「守谷カルタ」「江戸カルタ」「百人一首」を活用した取組み(4～6年)



4年生による百人一首

3 成果と今後の課題

(1) 成果

守谷市教育委員会指導室の訪問、茨城県教育研修センター指導主事の校内研修支援派遣等の指導、校内授業研究(一人1回の提案授業)を行い、授業の改善に取り組んだ。成果をみるため、学力診断のためのテスト(昨年度1月と本年度1月の実施)による検証を行った。

その結果、昨年度は国語を中心に、本年度は算数を中心にした研修により授業の充実が図られ、国語や算数を全体として好きになっていることが明らかになった。学力は昨年1月の県学力診断のためのテスト(6年生用：第5学年で実施)と本年度1月の県学力診断のためのテスト(6年生用)を同学年で比較して検証したところ、どの教科もプラスの結果が出た。これは、学校改善プランに沿っての取組みとのびのび下校での指導も大きな成果の表れだと考えられる。また、体力向上についても体力テストの結果から大きな成果が現れている。

(2) 課題

授業研究をさらに進め、授業力アップを図っていきたい。特に国語での成果が出ているので、国語での表現力を算数等で生かせるようにさらに校内研修を充実させていきたい。また、のびのび下校をさらに充実させ、学年や学級で計画的に指導が進められるように工夫改善を図っていきたい。

# 生徒の実態の分析結果をふまえた学力向上の実践

守谷市立守谷中学校

## 1 はじめに

学習指導要領改訂の基本方針は、教育基本法改正などで明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視すること。道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することとある。本校では、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するような教育を実践してきた。本年度の学校経営組織目標は、①分かる授業づくり、②豊かな人間関係づくりの二点があげられた。この組織目標具現化のため、意識を変えて教育活動の形を変える取り組みを通して、経営の改善を図るといったものである。さらに、守谷中教育活動の推進にあたって「日常化」と「具体性」が示された。日常の教育活動を、具体的かつ、ていねいに指導していくことで、生徒に自信をもって取り組むことができるようにする。全職員が、固定したものの見方ではなく意識を変えて生徒理解に努め、生徒の学力の実態を把握しより具体的に目標を指し示すことで、よりよい人間関係づくりをすすめる、確かな学力を育む取り組みを推進していきたいと考えた。

中学校教育で「生きる力」を育む教育活動として重視すべきは「確かな学力」の育成である。特に中学校教育の主要な役割を果たしている教科指導において「確かな学力」を定着させる学習活動の工夫に留意した。また、新学習指導要領では、学校の全教育活動において実施される道徳教育を充実する観点から各教科等における適切な指導が明示された。これらのことを踏まえ、道徳教育の全体計画、各教科等の指導計画を有機的に関連づけた教育課程を編成した。さらに、学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとするとしており、食育の推進や体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育以外の時間においてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めた。

## 2 実践

### (1) 生徒課題の共有化

#### ア 生徒の実態把握のための各調査の実施

本校の学力向上の一つの柱として、家庭学習のてびきの活用を据えることで、教科部の活性化、授業改善や、生徒の授業規律の確立、生活指導、栄養指導にまで取り組んだ。てびきの内容がどの程度浸透しているか、生徒の実態を把握するため、学期に2回（3学期は1回）定期的に学習状況調査と、生活状況調査を実施し生徒の課題を把握した。調査結果は教務部がS Q Sシステムを使い迅速に集計、考察を各項目ごとに記入し課題を分析。学年や教科部会での分析資料とした。

### (2) 生徒の自己肯定感と学ぶ意欲を高めるてびき

#### ア 守中授業メソッド（守中職員による守中生のための授業）の共通理解

自尊感情を育てる場面は、やはり授業の中にある。授業中の対応に教師によってばらつきがあったり、生徒が分からないことがあってもそれに気づかずに授業を進めてしまったりしては学力向上にはつながらない。授業に対する統一した方針「守中授業メソッド」を各会議や校内研修で折に触れ確認し、日常的な指導に当たることを徹底した。

#### イ 実力アップ朝テストの実施

学校改善プランから浮かび上がった課題に対して、スモールステップの課題を与える、漢字力、計算力、英語力の朝テストを実施した。2週間前に範囲を示し、継続して学習させることで基礎基本の定着を促す。短い範囲で学習に取り組ませることで、自己肯定感を味わわせるようにした。さらに、表彰をすることで実践意欲を高めた。不合格者は再テストを実施し、苦手な部分も定着するまでくり返し取り寄せ、最後はほぼ全員が合格できるようにした。



### (3) 生徒の実態にあった具体的な学習指導の推進

#### ア 守谷中学校家庭学習のてびきの編集

学力向上を図るために『家庭学習のてびき』を全校的な取り組みとして進め、学習方法を具体的に示し、家庭学習の時間を確保するとともに、家庭での学びを学校での学習に生かしたいと考え、具体的に学習方法をまとめ、「守谷中学校家庭学習のてびき」を編集し全使途に配付した。家庭学習の心構え、学習の基本的なルール、生活のリズムの在り方、各教科の授業や家庭での具体的な学習方法を示すことにより、自分から学ぼうという意識を高める内容を心がけた。追加した内容としては、定期テストの保護者連絡票や一年間の反省などを記入できるコーナーを新設し活用率の向上に努めた。

#### イ 基礎学力の確かな定着・実態に応じた指導

実力アップサマー学習会を夏季休業中6日間設定して習熟度別に学習相談を行った。夏季休業中ということもあり、全員参加することは難しかったが、参加した生徒にとっては苦手な部分の克服に努めることのできた機会になった。さらに、定期テスト前の部活動の停止期間を利用してのテスト前補充的学習の時間を設定し、学力の向上に努めた。



## 3 考 察

### (1) 生徒課題の共有化について

学習状況調査と生活状況調査を継続して実施したことは、生徒の印象だけでなく、実態を数値的な面からも捉えることができた。また、各項目について具体的な分析を提示したことで、全職員が同じ情報をもとに的確な指導をしていこうという意識が高まった。迅速な分析が求められたがS Q Sシステムの導入により、調査の集計や分析を簡便にした。

### (2) 生徒の自己肯定感と学ぶ意欲を高めるてびきについて

「守中メソッド」は、生徒の自尊感情を育てる大切な場である授業についての共通認識を明確にし、生徒の自尊感情を育てていこうとする職員の意識が高まりにつながった。生徒も、自分の努力に対して認められる体験が増え、学習を通しての自尊感情の高まりが見られた。

実力アップ朝テストの実施は、出題範囲が狭いため、生徒が意欲をもって学習に取り組むことができた。職員にとっても、スモールステップで日常的に学習に取り組ませようとする意識向上につながった。

### (3) 生徒の実態にあった具体的な学習指導の推進について

「家庭学習のてびき」の製本、配付をすることで、確かな学力育成のための各情報を整理し、生徒の実態にあった具体的な学習方法について全生徒、保護者、そして我々職員自信も共通認識することができた。

補充的学習の時間を設定することは、学習でわからない部分をそのままにせず、教師に質問する生徒の増加につながった。この時期は生徒の学力を向上させるために放課後や長期休みの時間を利用して、生徒の学力向上を図ろうという職員の意識にも高まりが見られた。

## 4 課 題

本年度は、本校の組織目標である、学力向上と自尊感情の高揚、不登校の解消の具現化の一つの方策として、家庭学習の手引きを全生徒対象に製本配付した。そして、てびきに書かれている内容がどの程度浸透しているかについて、年間を通して継続して生徒の実態調査を行い、各項目について分析して全職員に周知してきた。家庭学習のてびきの有効活用率が僅かに増加したものの、満足いく結果には至っていない。家庭学習のてびきの有効活用率向上については大きな課題であり、さらに検討を重ねなければならない。さらに、定期的な生徒の実態調査を実施し、分析して周知を図ったものの、その結果がどの程度生徒の学力向上に生かされているかについての考察部分が曖昧な状態になってしまった点は反省しなければならない。

生徒の自己肯定感の向上は我々の授業力の改善につきる。授業メソッドについては、今後も全職員に徹底させ、職員の意識を変えていく具体的な施策として捉えていく必要がある。そのためにも本校の校内研修の在り方を抜本的に見直し、学力向上の活性化につなげていきたい。生徒の自尊感情を学力向上の観点から高揚させるための朝テストの取り組みであるが、系統性をもたせるためにさらに回数を増やすべきであるという教科部の意向があった。今後は、この取り組みこそ、教科のみならず全校的な学力向上の具体的な施策として推進していくことが求められる。課題に対しては日常を大切にしながら、ひとつひとつ丁寧に対応し、組織目標の具現化に取り組むことのできるようにしていきたい。

# 研究主題「わかった感動・できた喜びを味わえる授業の創造」

～生徒一人一人が主体的に学ぶための、学習指導方法等の工夫改善を通して～

守谷市立愛宕中学校

## 1 はじめに

一昨年度末の生徒対象アンケート調査から、「授業がわからない」と答えた生徒が30%に達した。昨年度末の同アンケートでは、「授業がわからない」は19%まで減少した。これは授業研究を主とした校内研修を行った成果であると考えられる。

本年度はさらに学力の向上を図るべく、上記の研究主題を設定した。学力の向上は関心・意欲・態度の向上が出発点である。

わかるとは、理解することである。できるとは能力化することである。したがって「わかった感動」は、学習内容を理解した達成感であり、わかる授業づくりにおける指標とした。「できた喜び」は、能力化した達成感であり自己肯定感につながるものである。授業で習得した知識・技能を活用させる授業、家庭学習による繰り返し学習を行った。

また理解が困難な生徒に対しては補習による補充学習や取り出しによる個別指導を行った。

## 2 実践の内容

### (1) 一人一研修テーマの設定と実践

2学期に一人一授業公開を行う。指導案は、略案と板書計画とし、参観者が参観カードに記入し、授業者が振り返りを行えるようにした。本年度で2年目を迎え、教員に以下の創意工夫が見られた。

- ・学習課題を板書するなどが定着し、学習課題の把握ができるようになった。
- ・電子黒板を使った提示型授業で視覚的に理解させる授業に習熟がみられた。
- ・校内研修により、指導言を短く、端的にする傾向がみられた。
- ・授業参観によりノートを取り方を学ぶことで、自己授業におけるノート指導の改善が見られた。
- ・授業参観により、きびきびとしたテンポのよい授業を学び、自己の授業に生かす傾向が見られた。

反省点としては、参観者の授業者に対するコメントが少なかったことと、同じ教科の担当者が見られなかったケースが多かった点があげられる。見るポイント（導入・展開・終末）を絞っての参観は効果的であった。

途中より、同じ教科の職員が参観できるように時間割を変更したが、来年度は一人が期間を決めて複数の授業を公開するようにしたい。

### (2) 授業に関するアンケートの実施

学期毎に授業に関する生徒アンケートを実施した。各教科担任に対して評価を行い、

自由記述の欄も設けて要望等を書けるようにした。

本校教員は、このアンケート結果を真摯に受け止めており、2学期の授業アンケートでは、授業のわかりやすさに関して向上した教科が多い。

(3) 研修（研究主任，教務主任担当）

職員会議後，月1回研修を行った。研修内容は新課程における言語活動の授業，評価方法，授業シラバス，生徒指導など職員の要望と学校の必要からテーマを選択した。

校長による研修（資料，講話）も継続的に行われた。また3月には職員が道徳資料を持ち寄って，閲覧する道徳資料展を行った。

本年度の反省から，来年度は研修日を職員会議以外の月曜日に設定した。内容は若手教員の希望を基に計画した。若手教員には模擬授業が好評であった。

(4) 家庭学習ノートの実践（担任，学年主任）

学力は授業でつけるものであり，家庭学習は補助的手段である。授業がわからない生徒は家庭学習ができない。そこで家庭学習ノート1ページに自ら選んだ課題を学習し毎日提出させるようにした。提出状況はよく，忘れた生徒は放課後学習させている。

(5) 取り出しによる個別指導

普通学級在籍の生徒2名の取り出しによる数学，英語の個別指導を行った。1名は校内単語テストにおいて10級に合格した。

もう1名は小学校3年生の算数からはじめ，中学校1年生正の数負の数まで完全に習得した。

(6) 長期休みの補習

夏休み，冬休みに5教科担任による補習を行った。本年度はオリジナルティーチンプランによる大学生ボランティアの活用も行い，参加した生徒の学習意欲向上が確認された。

### 3 実践の検証

(1) 学力診断テストの結果から

昨年度に比べテスト成績が向上した。特に落ち込みの大きかった社会科，数学は顕著な向上が見られた。（社会1年+0.3から+7.8，3年+1.3から+8.1，理科1年-3.5から+3.1）合計点でも昨年度に比べ+17.4，3年+7.1向上した。

数学では，冬休みに習熟の低い生徒を集め補習を行ったが，補習により習得された部分は正答できたことが明らかになった。

(2) 取り出しによる個別指導

広汎性発達障害，境界知能の生徒対して個別指導を行った。小3以降の内容を習得していなかった生徒の保護者が大変喜んだことは重要である。中1ギャップの一要因である学習不振に対して，来年度は数学の少人数指導および取り出し指導を充実させたいと考えている。

## 特色ある学校づくり ― 校内研修を通して ―

守谷市立御所ヶ丘中学校

### 1 はじめに

本校は、平成21、22年度の研究テーマを「学び合いを実感できる授業を実践し、生徒一人一人の確かな学力の向上を図る―教科の特性を生かした学び合いの工夫改善を通して―」と設定し、校内研修、実践研究に取り組んできた。主な成果としては、「学び合いの工夫改善をすることで生徒同士がお互いに関わろうという意欲の高まり」と、「学び合いの自然発生」の2つである。課題点としては、基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の伸びにはつながらなかったことである。

本校の生徒の実態としては、「自分の考えや意見を表現することが苦手な生徒が多い」ということがあげられる。

平成23年度の校内研修、実践研究は、昨年度までの研究の課題点と本校の生徒の実態を踏まえ、「学び合いの工夫改善による学力の向上」と「表現力の向上」の2つをキーワードとして推進することにした。

### 2 実践

#### (1) 研究テーマ

表現力の向上を図る学習指導

―教科の特性を生かした学び合いの工夫改善を通して―

#### (2) 研修計画

月	研 修 内 容	
4	①全体会	【昨年度の研究成果・課題，本年度研究テーマ確認】
6	①研究推進部	【研究計画】 ・本年度研究計画素案作成
7	①研究推進部	【本校の生徒の実態と教育活動の現状，課題の共通理解】 ・昨年度の研究内容紹介（本年度転入職員対象） ・指導案形式等の確認 【生徒の実態調査①学び合い関連】 ・第1回生徒アンケート調査実施と集計 ・授業評価（生徒用・教員用）項目の設定
8	①全体会 ②教科部会 ③全体会	【教育思潮，社会的要求の共通理解】 ・教育課程研修会・各種研修会参加者の報告会 ・各種資料紹介・研究テーマに関わる事項の本年度の生徒実態と教育活動の現状と指導の手立てを話し合う。 ・教科部会の話し合い結果を報告する。
9	①教科部会 ②全体会	【研究の仮説と検証方法の設定】 ・生徒の実態と教育活動の現状，教育思潮，社会的要求の実態等から仮説と検証方法を設定する。
10	①個人 ②教科部会 ①個人 ②教科部会	【授業計画（単元）】 ・仮説をもとに，授業計画。授業評価項目の設定（生徒） 【授業実践（単元）】 ・研究授業の指導案作成
11	①個人  ①個人	【研究授業】 【授業実践（単元）】 ・授業評価（生徒・教員）実施 【研究授業の成果の整理】 ・授業評価（生徒・教員）と授業の反省をもとに研究成果の整理（研究授業を含む）

1	①研究推進部 ②個人 ③教科部会	【学力診断テスト（1年，2年）実施と分析】 ・本年度の研究に関わる分析項目の設定する。 ・本年度研究に関する分析をする。
2	①教科部会 ②全体会 ③研究推進部	【本年度の研究のまとめ】 ・仮説の検証を行い，結果をまとめる。 ・生徒の実態調査①②を比較し変容を分析する。 ・各教科から報告をして本年度の研究の成果と課題を話し合い共通理解を図る。 ・研究の成果と課題をまとめる。

### (3) 授業実践事例

#### ① 国語（少人数）第2学年 単元名「走れメロス」

自分の考えを自由に書き込めるように教科書本文を刷り直し，テキストを一人ずつ作った。テキストに施した工夫点として，余計な情報を取り払い，本文のみの印刷とした。余白スペースはちょうど付箋紙が収まる大きさにし，難解な語句の意味調べ，感想，読み取ったこと，振り返りなど自由に書き込み，オリジナルのテキストとなるようにした。また，クラスごとに生徒から出される疑問点を課題集としてプリントアウトし，授業の最後に，クラス全員で解いていく時間も設けた。文章を繰り返し読んでいく中で，新たに生じる疑問点や気づきなど教室内で自由に交換し合い，表現しあうことで個人の読みを高めることができた。また，疑問を解決していく中では，自分が考えた根拠を示していくような展開を心がけた。学習を継続する中で，一つの文や言葉にこだわりを持ち，言葉の持つ意味をしっかりとらえる感覚が身についたと思う。

#### ② 社会 第3学年 単元名「わたしたちの生活と経済」

今回の授業では，ロールプレイングによる体験的活動の場を設定し，それをもとに学び合いや調べ学習が活発に行われるようにした。さらに，電子掲示板でのクイズを行い，用語を具体的に理解できるようにした。まとめの段階では，学習したことを文章化する活動を取り入れた。個々の生徒がじっくり思考し，それを表現できるよう，課題の明確化と活動の時間の確保を図った。ロールプレイング後，生徒たちからの発言も多くあり学び合いが活発に行われた。まとめの段階では，生徒各々が自分なりのしっかりとした考えを表すことができた。

#### ③ 保健体育 第2学年 単元名「球技バドミントン」

バドミントンは特性上，比較的容易に取り組むことができる種目である。その特性を生かし，早い段階から試合を通して技能や戦術を身につけることを目指した活動を展開した。その中で，様々な様式のカードを利用し，互いに「コーチになろう」という言語活動を取り入れた。コーチをするためには，技術や戦術，ルールを理解が必要であり，基礎・基本を身につけることが重要である。生徒たちは，試合を通して疑問点などを資料を活用して調べ，身につけた知識等を生かしながら，コーチング（教え合い）を行うことができた。内容的には，必ずしも充実しているとは言えないが，基礎・基本の習得やカードを利用して考えを整理したりまとめたりする活動を保証することによって，表現力を発揮させるきっかけになるであろうことが実感できた。

### 3 成果及び今後の課題

- (1) 新学習指導要領の重要事項である「言語活動」に関する校内研修を実施し，「言語活動」と本校の「表現力の向上」との関わりについて考えることができた。校内研修，実践研究の方向性が明確になってきた。
- (2) 学力診断テストでは，どの教科においても正答率が昨年度と比較して高くなったが，記述による問題の正答率が低かった。文章による表現力を高める必要があることが分かった。生徒に身につけさせたい表現力とはどのようなものなのかを教科の特性に合わせてより具体化していく必要があった。
- (3) 全体的に表現力を高めるためには，基礎的・基本的な知識・技能が必要である。基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせるために，学び合いの改善工夫の他に，生徒が自ら学習に取り組む態度も育成していく必要がある。そこで，次年度は家庭学習の手引きの作成についての研修と実践研究を充実させていきたい。

# 特色ある取り組み

## 主体的に考え、表現しようとする生徒の育成

守谷市立けやき台中学校

### 1 はじめに

本校では、平成23・24年度の2カ年にわたり、守谷市教育研究会指定の研究に取り組んでいる。研究テーマを、「主体的に考え、表現しようとする生徒を育成する学習指導の在り方 ―各教科における言語活動の充実を通して―」とした。

本研究における「主体的に考え、表現しようとする」とは、生徒の主体的学習に取り組む態度を基盤とし、思考、判断したことを表現することを意味する。「考える」と「表現する」とは、それぞれ別々の力としてとらえるのではなく、それぞれが有機的に結び付いた総合的な力としてとらえることが大切である。自分が思考・判断したことは、表現することで、整理したり明確化したりするとともに、自他の考えを広げたり深めたりすることにつながる。すなわち、思考、判断と表現は相互に作用し合い、総合的に高まっていくと考えられる。教科の指導においては、各教科の特性を考慮し、適切な言語活動を通してそれらを育成していく必要があると考える。

### 2 研究の経過

平成23年度の主な研究の経過は次の通りである。

5月9日（月） 要請訪問(1) 【研究の進め方に関する理論研修】

◇講師 守谷市教育委員会指導主事 田崎 均 先生  
〃 長塚 和徳 先生

6月13日（月） 計画訪問

◇講師 守谷市教育委員会教育長 後藤 光良 先生  
守谷市教育委員会指導室長 辺見 芳宏 先生  
守谷市教育委員会指導主事 田崎 均 先生  
〃 長塚 和徳 先生

11月2日（水） 要請訪問(2) 【国語科授業研究】

◇講師 茨城県教育研修センター教科教育課指導主事 菊池 英慈 先生  
◇授業者 1年3組 岡本 佳与 教諭「構成をとらえよう」  
3年4組 柿沼 秀和 講師「古典を味わおう」

11月8日（火） 要請訪問(3) 【数学科授業研究】

◇講師 守谷市立御所ヶ丘中学校教頭 石井 良秋 先生  
◇授業者 1年2組 鈴木 克寿 教諭「比例と反比例」  
3年1組 高城 佑佳 教諭「相似と比」

11月9日（水） 要請訪問(4) 【理科授業研究】

◇講師 守谷市教育委員会指導主事 長塚 和徳 先生  
◇授業者 2年5組 加々美 益樹 教諭「物質の成り立ち」  
3年4組 池田 みゆき 教諭「アルカリとイオン」

11月17日（木） 要請訪問(5) 【保健体育科授業研究】

◇講師 茨城県教育研修センター教科教育課指導主事 高田 利信 先生  
◇授業者 2年3・4組 横尾 香織 教諭「ダンス」  
2年3・4組 大原 雅広 教諭・市毛 知明 教諭「柔道」  
3年1組 大原 雅弘 教諭・市毛 知明 教諭・渡辺 綾子 養護教諭  
「健康な生活と病気の予防」

- 11月22日（火） 校内授業研究 【外国語科（英語）授業研究】  
 ◇授業者 1年4組 小針 淳一 講師「ほかの人を紹介しよう」  
 3年2組 秋葉 義明 教諭「守谷のおすすめスポット」
- 12月14日（水） 要請訪問(6) 社会科授業研究  
 ◇講師 守谷市教育委員会指導室長 辺見芳宏 先生  
 ◇授業者 2年3組 野村 正樹 講師「世界との結びつきを強めるフランス」  
 3年4組 有留 秀樹 講師「国際問題と地球市民」
- 1月25日（水） 要請訪問(7) 【音楽科授業研究】  
 ◇講師 守谷市立御所ヶ丘小学校教頭 寺田 純子 先生  
 ◇授業者 1年1組 櫻井 あかね 教諭「箏 さくら」
- 2月8日（水） 要請訪問(8) 【技術・家庭科授業研究】  
 ◇講師 茨城県教育研修センター教科教育課指導主事 高橋 秀治 先生  
 ◇授業者 2年3組 小川 大輔 講師「エネルギー変換器の仕組みと保守点検」  
 1年3組 高橋 智子 講師「日常食の調理と地域の食文化」
- 2月9日（木） 要請訪問(9) 【美術科授業研究】  
 ◇講師 守谷市立御所ヶ丘小学校校長 磯山 芳男 先生  
 ◇授業者 2年2組 真鍋 由紀子 教諭「『鳥獣戯画』を味わう」



【数学科の授業研究より】

電子黒板を使って、互いの考えを交流し合っている様子



【保健体育科の授業研究より】

ビデオを使って、自分たちの演技を振り返りながら話し合っている様子

### 3 成果と課題

今年度の研究を通して、次のような成果と課題が明らかになった。

#### (1) 成果（○：生徒 ◇：教師）

- 教科間の連携した指導が図られるようになってきたことで、まとめや考察の文章を書く力が高まってきた。
- 授業で意見を出し合うことを楽しいと感じる生徒が増えてきた。
- ◇ 授業研究への意識が高まり、生徒の学習指導に関する話合いの機会が増えた。
- ◇ 教科部会を中心に授業を立案したり、手立てを検証したりしたことで、指導法について深く考えたり、視野が広がったりした。

#### (2) 課題

- ・ 学習用語や正しい言葉遣いで書いたり話したりする力を向上させていきたい。
- ・ 各教科で実施しているオリエンテーションを見直し、よりよいものにしていきたい。
- ・ 年間指導計画、評価規準表を性急に作成していきたい。